

第2回 岡谷市議会「議会報告会」意見交換（要約）

問：総務委員会の小中学校の視察回数について、子どもに関する深刻な問題が多い現状であるが、小中学校の状況視察をした後、再度どのようなようになったかを確認することが重要であると思うがどうか。

答：市内小中学校の視察は毎年実施し、任期中には全ての小中学校を視察することとしている。
視察後どのようなようになったかを確認することは重要なことであるので、委員会で検討させていただきたい。

問：委員会報告の中で4年間委員の構成に変更がなかったとのことだが、3常任委員会とも同じ構成員であるのか。従前は2年で委員の変更がされていたが、せつかく委員会の所管事業について理解を深めた時に委員会を変更するのはもったいない。

答：現任期中は各委員会とも4年間継続して同じ構成員です。

問：国の方針で進めている政策について危惧されている問題が多い。国で決定したものであるからといって受け入れるのではなく、国に対してもダメなものはダメと意見するなど、市民の立場に立って活動していただきたい。

答：市議会では国に対し意見書を提出している。常任委員会で審査し、願意が妥当と採択された意見書は本会議にて審議され、可決された意見書は国へ提出するという活動をしております。

問：議会基本条例は議員の問題である。議員18名いれば簡単にできるのではないか、既にできている市もあるとのことだが、今年中にできないのか。

答：早急に条例を制定しても、実体が伴わないものになってはいけないと思います。
市民に開かれた議会ということを中心に、一つ一つの改革の議論を勢力的に進めており、あまり急ぎすぎて拙速にならないようにと考えております。

問：消費税率が8%に改定され3%の負担増となり、周りの市民からは何とかしてもらいたいという声が多く聞かれる、議会では「国に対し、消費税増税中止の意見書を提出することを求める請願」が不採択となったが、市民の代表というところで疑問を感じたがどうか。

答：消費税率の改定については議会でも検討し様々な意見がありましたが、今回の請願については、既に国で決定していたこともあり不採択となっております。

国が消費税率を引き上げなければならない事情もわかるが、岡谷市議会としては、市民の生活が安定するような施策を充実させてほしいとのことを趣旨とする意見書を国に対し提出しておりますのでご理解いただきたい。

問：市で取り組んでいる公共事業について、消費税、物価、工賃、労働者の手当などが上昇して、全体的に事業費が当初予算より大きくなり、支出も多くなっているが、議会は公共事業の予算の増額を可決している。議会は岡谷市財政の見通しを持っていると思うが、将来の見通しはどうか。

答：地方財政健全化法の中で、財政指標が国から示されているが、今後の推計において各指標とも基準を下回っている。さらに、市側も財政を見極め、基金に頼らない財政運営に努めており、今後大きな状況の変化がなければ、岡谷市の財政は安定していると考えています。

問（要望）：岡谷市で一番問題なのは人口減少であるが、議会報告会で人口減少の話が一向に出てこないのが残念である。この問題は理事者と議会と両輪で人口減少対策ではなく、人口増加対策としてプラス思考の施策を是非実施していただきたい。また、既に実施している自治体を視察し、実行していただきたい。

問：現在は一般の会社でも I T を駆使しているが、議会の一般質問などでは I T が使われていないため、テレビ中継がされても内容がわからない。そのような状態では開かれた議会と言えないのではないのか。

また、議員が I T を使えないから、使えない議員に合わせていると世間で言われているが岡谷市はどうか。

答：I T の活用は議会改革の広いテーマの中で重要なテーマの一つであると思っております。また、議員の多数が I T に精通しているかということそうではない現状があることも事実でありまして、I T に精通し、開かれた議会の推進している議員に学びながら、今後研究を深めていく課題であると思っております。

問：岡谷市議会では、議員間で I T 使用を制限するような阻害要因は無いということでしょうか。

答：議会中継をインターネットで実施している議会も多いが、岡谷市議会はインターネットとともに、シルキーチャンネルにおいても放送しており、シルキーチャンネルを大切にし、さらに充実を図っていきたい考えであります。

岡谷市議会においても、インターネットにおいて議員の採決態度を公開するなど、I T を通じて開かれた議会が少しずつ進んでおりますのでご理解いただきたい。

問：少子化対策について、議員も真剣に考えていると思うが我々も心配している。子どもを含む全体の人口が減ってきていることから、極端な例として、1人の出産につき10万円を給付したらどうか、また、岡谷病院の産科が休止しているが、いつ頃再開される見込みなのか。

岡谷で子育ては本当に楽しいと感じるようにしなければならないと思う。

自治体の例で、保育料を安くしたことにより、隣の自治体から移り住む人がいると聞いている。保育料を安くしろとは言わないが、何かアクションを起こした方がよい。「人口減少はやむを得ない」では岡谷市の将来が心配である。

答：病院の産科については、大変厳しい状況である。医師は24時間365日、常に手術の場に立ち会うことができなければならず、これまで病院を支えていただいた医師も、体調不良などでやむを得ない判断として休診している。

医師確保については、市長をはじめ病院長、事務長、議員も目を配っており、新病院に産科があってくれたら良いという想いは、議員も行政も同じであります。

少子化の問題については、個々の議員が一般質問において、様々な角度から提案や要望をしている。これからも、子育て支援や母親が安心して子育てができる環境の醸成に努めてまいりたい。

また、人口減少については、全国的に都市が消滅するという危機感があり、岡谷市においては働く場所の創設に力を入れております。岡谷市の人口は減少傾向であります。減少しても行財政運営を維持していける市にしなければならないと思っております。

問：空き家は大きな問題であるので、解決に向け良い方向を出していただきたい。

岡谷市の商店街がこれからどうなっていくのか心配している。また、大型店舗の建て替えに伴い、その中に入っている商店がどのようなようになるのか心配している。

答：岡谷市では500棟を超える空き家があり、その中でランク分けをして対応していくこととなると思う。空き家対策は全国的にも大きな問題となっており、条例ができたからといって解決するものでもありません。有効な手段をどのように講じるのかが課題であります。

また、商店街について、岡谷市の商店の休廃業は年間50件～55件あり、今後、大型店舗の建て替えの影響も懸念している。一回無くなった商店はなかなか戻らず、また、商店減少は高齢者に与える影響も大きいと感じております。

問：病院建設工事における、インフレスライド条項適用の増額分には労務費も含まれているのか。

答：増額は労務、資材、部材の単価増で、電気設備工事、機械設備工事、建築工事合算の金額であります。

問：消費税率の改定について、市民と議員の間にギャップがある。市民は反対しているが議員はそうはならない。議員には市民の中に入り、よく意見を聞いてもらうようお願いしたい。

答：陳情や陳情をする市民の声をよく聞いてほしいとのことですが、請願や陳情をされる方の声を議会において直接聴取することについては、議会改革の一つとしてさらに検討を深めてまいりたいと考えております。

問：新病院建設について、インフレスライド条項適用による増額分について労務単価が含まれているとのことであるが、労務単価分として色がついているわけでない、労働者の賃金に回っていけば良いが、工事費の上昇などで最終的にしわ寄せがいくのは下請けの労働者ではないかと思うが、チェックはできるのか。

答：工事費は元請に支払われるため下請けにインフレスライド条項適用による増額分が支払われているか議会においても個々の議員が質問している。今後、決算の段階で判明すると思うので、一般質問などで取り上げてまいりたい。

問：人口の減少、仕事も減っているということであるが、今後、経済にどのような影響があるのか。

答：岡谷市においては、企業誘致などの工業振興施策を実施している。

行政もスタッフを揃え実施しているが、なかなか目に見えるような形になってきていない。

子育て支援や定住促進事業などの問題や課題に、多くの議員が一般質問で取り上げておりますのでご理解いただきたい。